

台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアムが発足

国立大学法人横浜国立大学（神奈川県横浜市、学長：梅原 出、以下「横浜国立大学」）は台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアム^(注1)を2022年9月20日に発足させました。本コンソーシアムは台風を「恵み」へと変え、安全・安心で持続可能な活力ある社会を実現するために、台風科学技術研究センター（TRC）が中核となり、多くの民間企業等の参画を得ながら、産学官連携のもと、台風科学技術を活用した製品・サービスを創出・社会実装を推進し、世界に発信していくための活動を行います。

(注1)

- ・正式名称：台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアム
- ・英語名称：Typhoon Science and Technology Innovation Consortium
- ・通称：TRC コンソーシアム（TRC コンソ）

コンソーシアムの概要

【代表挨拶】

筆保弘徳 TRC センター長

近年、地球温暖化による台風強大化に伴い、日本各地で激甚災害が増加しています。特に、平成30年台風21号、令和元年房総半島台風、令和元年東日本台風は都市部を襲い、過去最大となる経済的被害をもたらしました（注2）。国民の生命・財産を守るため、これまでも様々な防災・減災対策が講じられてきましたが、残念ながら台風による被害は後を絶ちません。こうした状況を変えるべく、私どもは台風の専門家として、台風被害の軽減のために貢献していきたいと考えております。一方、見方を変えれば、台風は自然エネルギーの塊でもあります。その巨大なエネルギーを資源として有効に活用できれば、脱炭素社会の実現に寄与する新たな再生可能エネルギー源を確保できる可能性があります。台風科学技術研究センターでは、台風を人類にとって「脅威」の存在でなくすだけでなく、今までにない新たなエネルギーをもたらす「恵み」へと変貌させ、安全・安心で持続可能な活力ある社会を実現することを目指し研究を進めています。

しかしながら、台風のメカニズムや予報、防災・減災や再生可能エネルギーに関する先駆的な研究を社会実装し、社会に貢献するためには、企業と研究機関の連携が不可欠です。そこで私どもは、台風科学技術研究センターで生まれた学術的知見を活用されたい企業様とともに、相互の強みを生かしつつ協働していきたいと考えております。技術的にも社会的にも解決すべき課題は数多くありますが、社会実装の知見を有する企業と、台風の専門家が協働し総合的な解決を図ることができれば、望ましい社会の実現に近づくことができるはずです。「台風イノベーション」をキーワードとして、皆様と共に台風と共存する新しい未来を作るため、企業や業界の垣根を超えた“台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアム”へご参加頂きますようよろしくお願い申し上げます。

(注2)

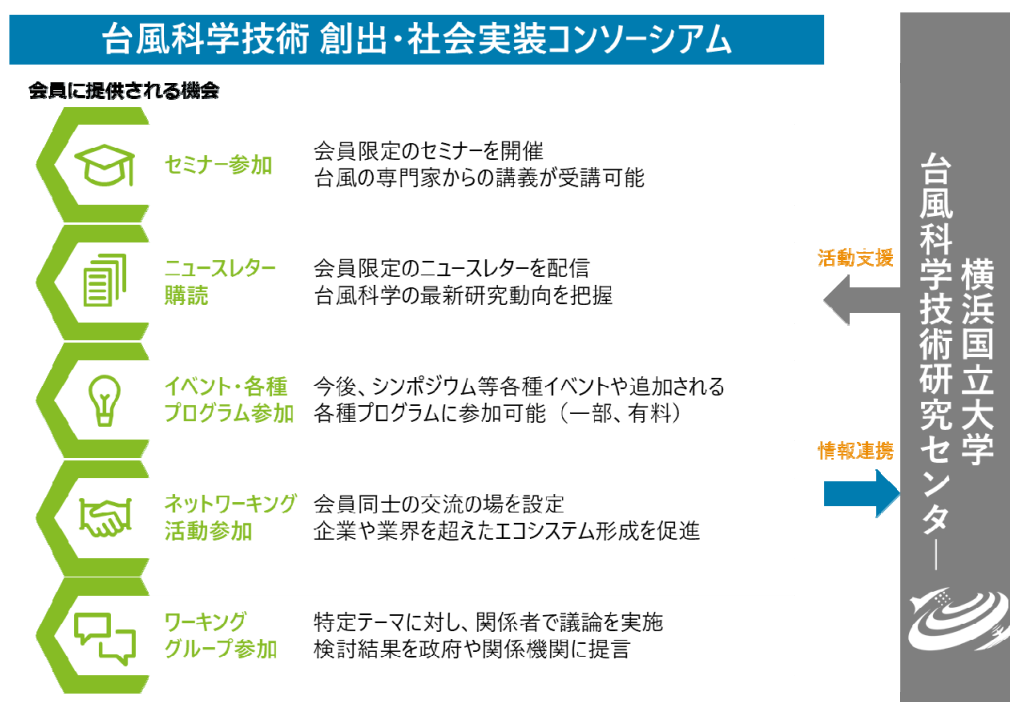
日本損害保険協会 風水害等による保険金の支払い

https://www.sonpo.or.jp/report/statistics/disaster/ctuevu000000530r-att/c_fusuigai.pdf

【活動目的】

1. 台風の防災・減災・制御・発電に係る最新研究と取り組みに関する情報共有
2. 台風科学技術の社会実装に向けた課題抽出とロードマップ策定
3. 社会実証試験の推進
4. 台風の防災・減災・制御・発電に係る事業実現の促進
5. 台風技術に係る標準化・規格化の検討
6. 台風の防災・減災・制御・発電に係る諸政策、施策に関する各所への提案・提言

【活動内容】



【会費】

一般会員：15万円/年度

賛助会員：2万円/年度

※ただし、2023年3月末（2022年度分）までの活動については会費不要。

【入会方法】

コンソーシアムへの入会をご希望の方は、以下のWebサイトの入会案内をご確認の上、入会申込書に必要事項を記載し、所定のアドレスまでご送信ください。折返し、事務局からご連絡を差し上げます。

<https://trc-conso.ynu.ac.jp>

本件に関するお問い合わせ先

横浜国立大学 先端科学高等研究院 台風科学技術研究センター 鹿渡

E-mail: ynugr-trc-consortium@ynu.ac.jp